

令和5年度 山口県 英語教育改善プラン

目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、目標と指導と評価の一体化をめざし、パフォーマンステスト等を位置付けた単元構想に基づいた言語活動中心の授業実践を行う

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定が100%（前年比+9.5）
- ②授業において半分以上の時間で英語による言語活動を行っている割合が100%（前年比+3.4）

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表及び達成状況の把握が100%未満
- ②子どもが意欲的に活動することができるような言語活動の充実
- ③育成をめざす資質・能力が身に付いたかを見取るパフォーマンステストの方法と評価

2. 分析

- ①市町教育委員会指導主事等を中心とした地域モデルの作成及び学校訪問
- ②研修会において、事前課題をクラウド上に提出し、具体例を参加者全員で共有した上で行う授業づくりについての協議

- ①公表・達成状況の把握における有用性や目的についての理解が不十分であること
- ②「コミュニケーションの目的や場面、状況等」について実践を基に理解を深め、よい授業のイメージをつかむことが不十分であること
- ③教員が実践を重ねる中で、目標と指導と評価を一体化させる指導についての必要性やニーズが出てきたこと

3. 施策・事業

<研修会の実施>

- ①①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の有用性について、データや子どもの具体的な姿を取り上げた研修による理解促進
- ②市町教育委員会指導主事との指導助言の方向性の共通理解
- ②③育成をめざす資質・能力などの理解を促すために、文部科学省/mextchannelの活用を位置付けて、全国の好事例から学ぶ研修会を実施
- ②③県内の好事例を紹介して追試行を促進

<指定校研究の推進>

- ①①各学校の実情に応じてカスタマイズできるように、地域モデルを作成
- ②授業力向上に向けて、定期的な研修会の実施
- ②③小中合同研修会や定期的な研修会を通じた校種間連携

<児童生徒の英語力向上事業>

- ②外部試験の実施

<一定の英語力を有する新規採用者の採用>

- ・山口県公立学校教員採用候補者選考試験において小学校受験者を対象とした英語資格等による加点
- ・大学生や新規学卒採用予定者を対象とした「山口県の教師塾」

令和5年度 山口県 英語教育改善プラン

目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、目標と指導と評価の一体化をめざし、半分以上の時間で英語による言語活動を行う割合を100%にする

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表や到達状況の把握をする学校の割合の増加
- ②パフォーマンステストの実施回数が8.5回（前年比+0.6）

未だ改善が必要な点

- ① 言語活動の質の向上
- ② パフォーマンステストをカリキュラムや「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標と関連付けていくこと
- ③ 小中連携カリキュラムを作成している中学校区の学校の割合

2. 分析

- ① 県市町教育委員会による学校訪問で各学校の状況を定期的に確認すること
- ② 研修会を複数回行い、理論と実践を往還できるようにした。また、自己の実践を基に報告会を実施

- ① 言語材料と言語活動とを効果的に関連付けた指導方法の必要性や有効性に対する理解
- ② 「CAN-DOリスト」形式による学習到達度目標の達成状況を把握する必要性についての周知不足
- ③ 同一中学校区の学校間で互見授業や協議といった小中合同研修を行う機会が少ないこと

3. 施策・事業

＜研修会の実施＞

- ① 小中の学習内容の連続性や系統性を捉えて共通の指導ができるように連携を推進
- ① 学習指導要領を踏まえた授業づくりの方略について研修を行い、継続的な研修を通して授業改善を推進
- ② 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を生徒の実態や地域の特徴等を鑑みながら加筆修正
- ③ 各地域での研修会で小中連携カリキュラムの作成について研修を複数回実施

＜指定校研究の推進＞

- ② 各学校の実情に応じてカスタマイズできるように、地域モデルを作成
- ①② 授業力向上に向けて、指定校の公開授業や研究協議等を通じた授業改善
- ③ 合同研修会や定期的な研修会を通じた校種間連携

＜児童生徒の英語力向上事業＞

- ① 外部試験の実施

令和5年度 山口県 英語教育改善プラン

目標

英語で情報や考えを理解し、意見などを伝え合うことができる生徒の育成に向けて、指導と評価の一体化を進め、半分以上の時間で英語による言語活動を行う割合を75%にする。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト形式による学習到達目標」公表が66.7%（前年比+13.4）、達成状況の把握が66.7%（前年比+5.4）
- ②授業において半分以上の時間で英語による言語活動を行っている割合が47.3%（前年比+13.9）
- ③全科目のパフォーマンステストにおいてスピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合が42.6%（前年比+9.9）

未だ改善が必要な点

- ①①における公表・達成状況の把握が100%未満
- ②パフォーマンステストを活用した評価の一体化の一層の促進
- ③言語活動を通じた指導の一層の充実

2. 分析

- ①③指導と評価の一体化の重要性について、教育課程研究協議会や各種研修会、リーフレットの発行などを通じて、管理職、教員及び生徒への周知を行った。
 - ②小中高連携英語教育推進校による取組や、学校訪問等で、効果的な言語活動について指導助言を行った。
- ①②CAN-DOリストと結び付いた年間指導計画及び年間評価計画の作成・活用を進め、パフォーマンステストの効果的な実施により指導と評価の一体化の一層の促進を図る必要がある。
- ③中学校で行われている言語活動への理解を深め、つながりある指導をする必要がある。また、効果的な言語活動の機会を創出する必要がある。

3. 施策・事業

〈学校訪問〉

- ①③訪問校のCAN-DOリスト、年間指導計画及び年間評価計画を踏まえた指導助言を実施。
- ①③指導と評価の一体化の実践事例を提供。

〈言語活動を通して「話すこと」「書くこと」の発信能力を高める外国語科授業づくり研修講座、ALT指導力等向上研修会〉

- ②言語活動を通じた授業づくりについて、実践的な講義・演習を実施。
- ③中高の教員による合同研修により、言語活動を通じた指導について情報を共有。

〈小中高連携英語教育推進校及び研修協力校による取組〉

- ①小中のCAN-DOリストとのつながりを意識した高校におけるCAN-DOリストの活用の一層の促進。
- ②パフォーマンステストの運用方法等について研修協力校等による先進事例を共有。

〈ハワイ州教育局との連携による交流活動等〉

- ③姉妹校等における相互交流やオンライン交流を活かした実践的で多様な言語活動の機会を創出。